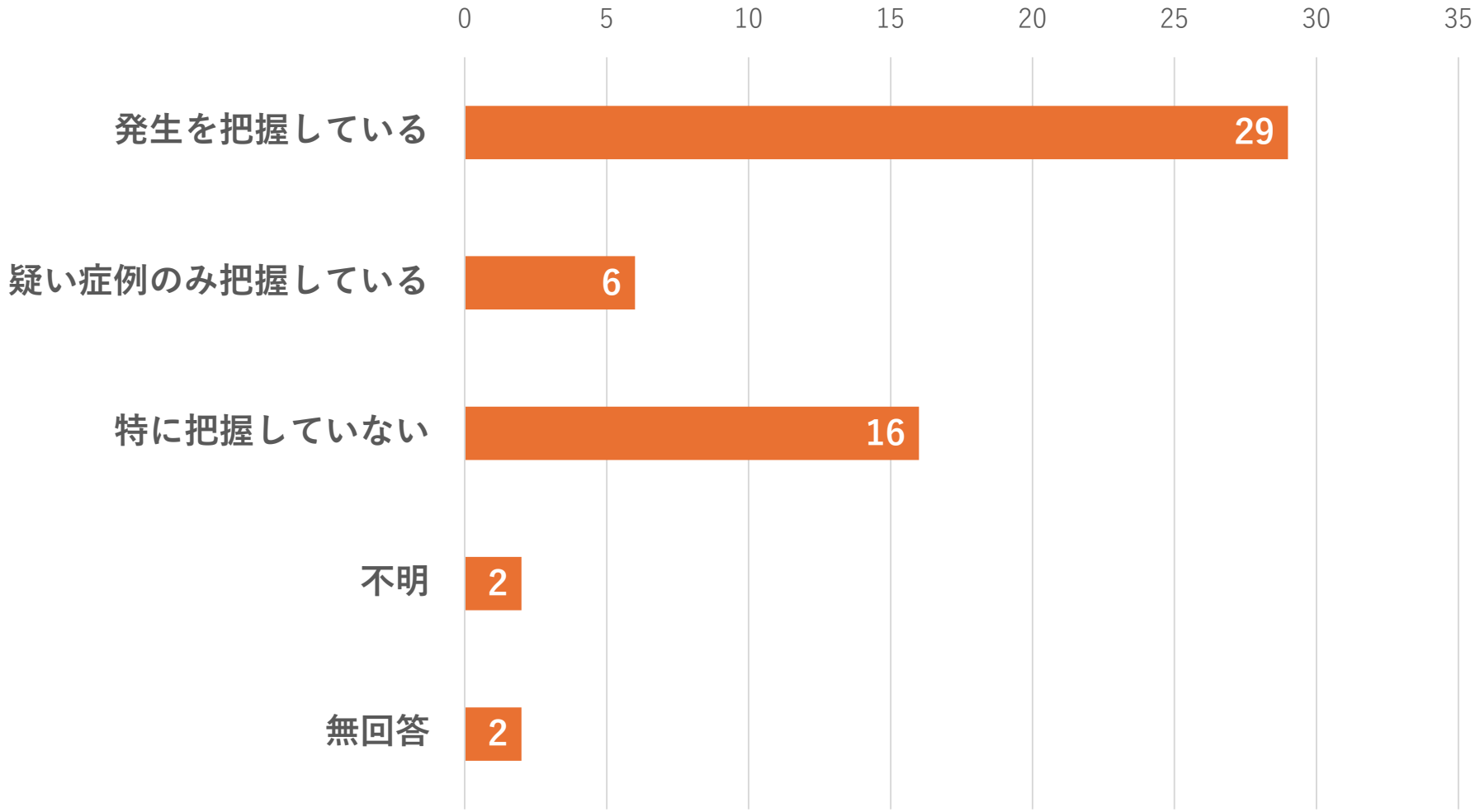
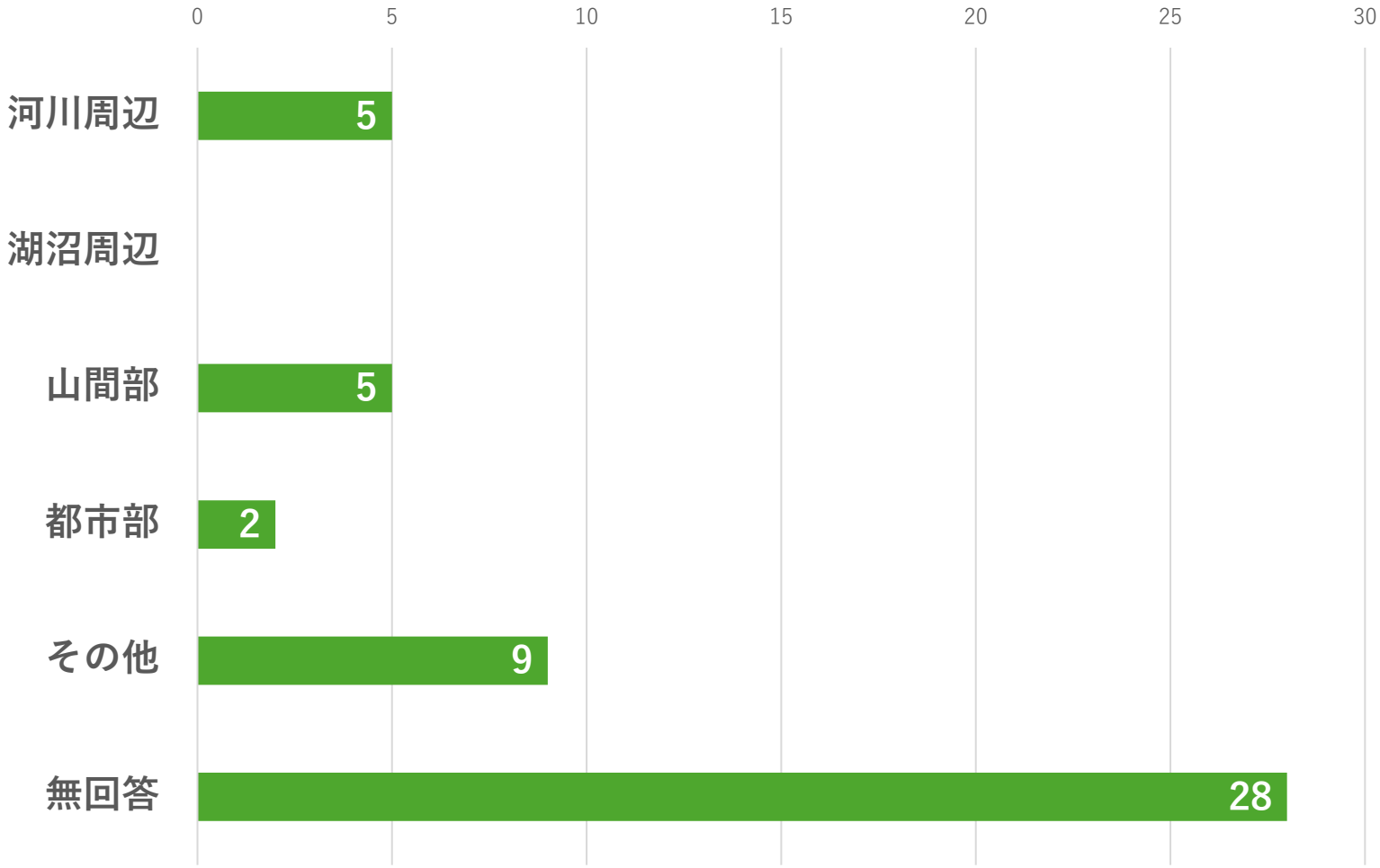
Q1.　貴会管内において、近年犬レプトスピラ症の発生又は疑い症例を把握していますか？



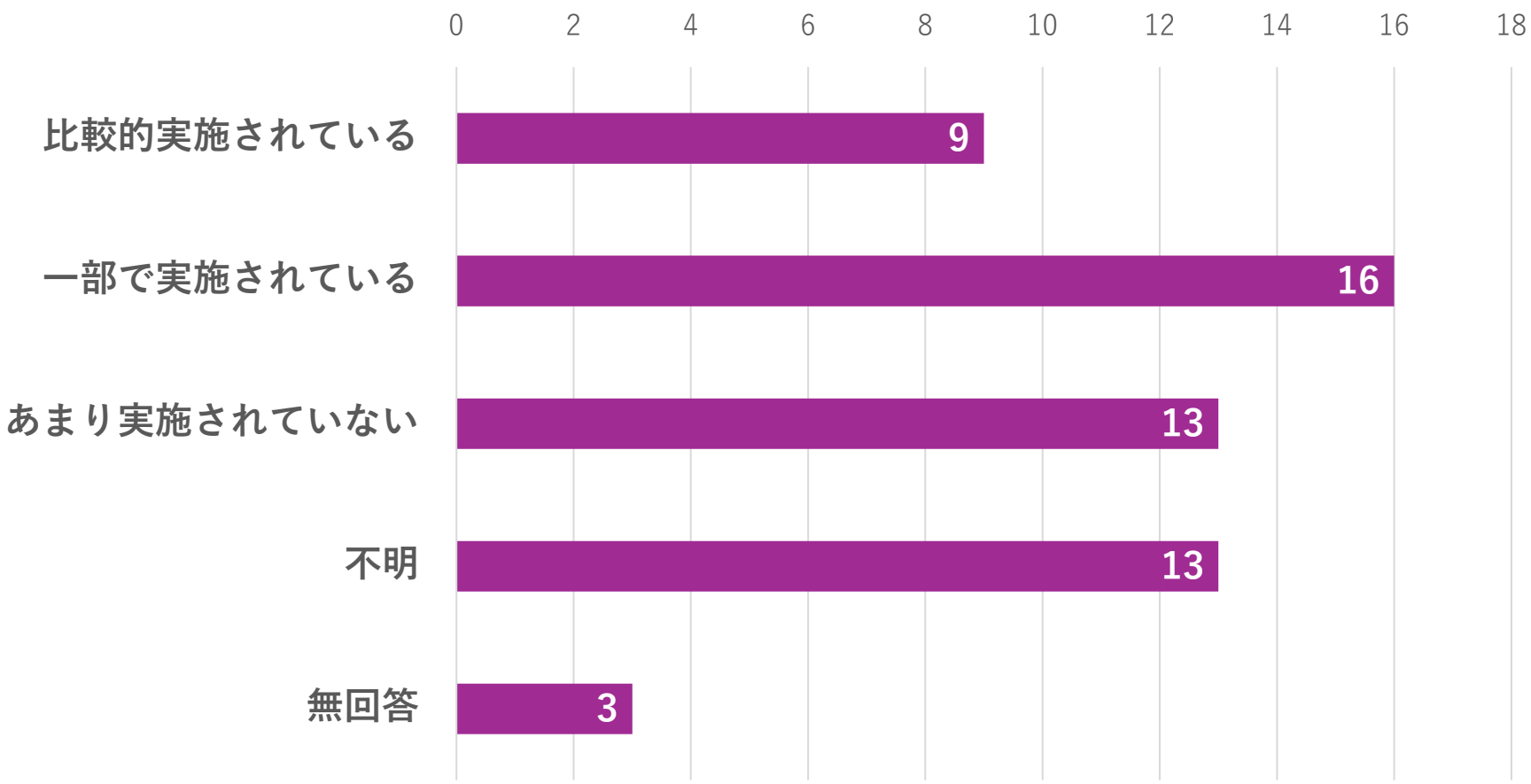
Q2.　発生又は疑い症例がみられる場合、その地域的特徴があればご記入ください。



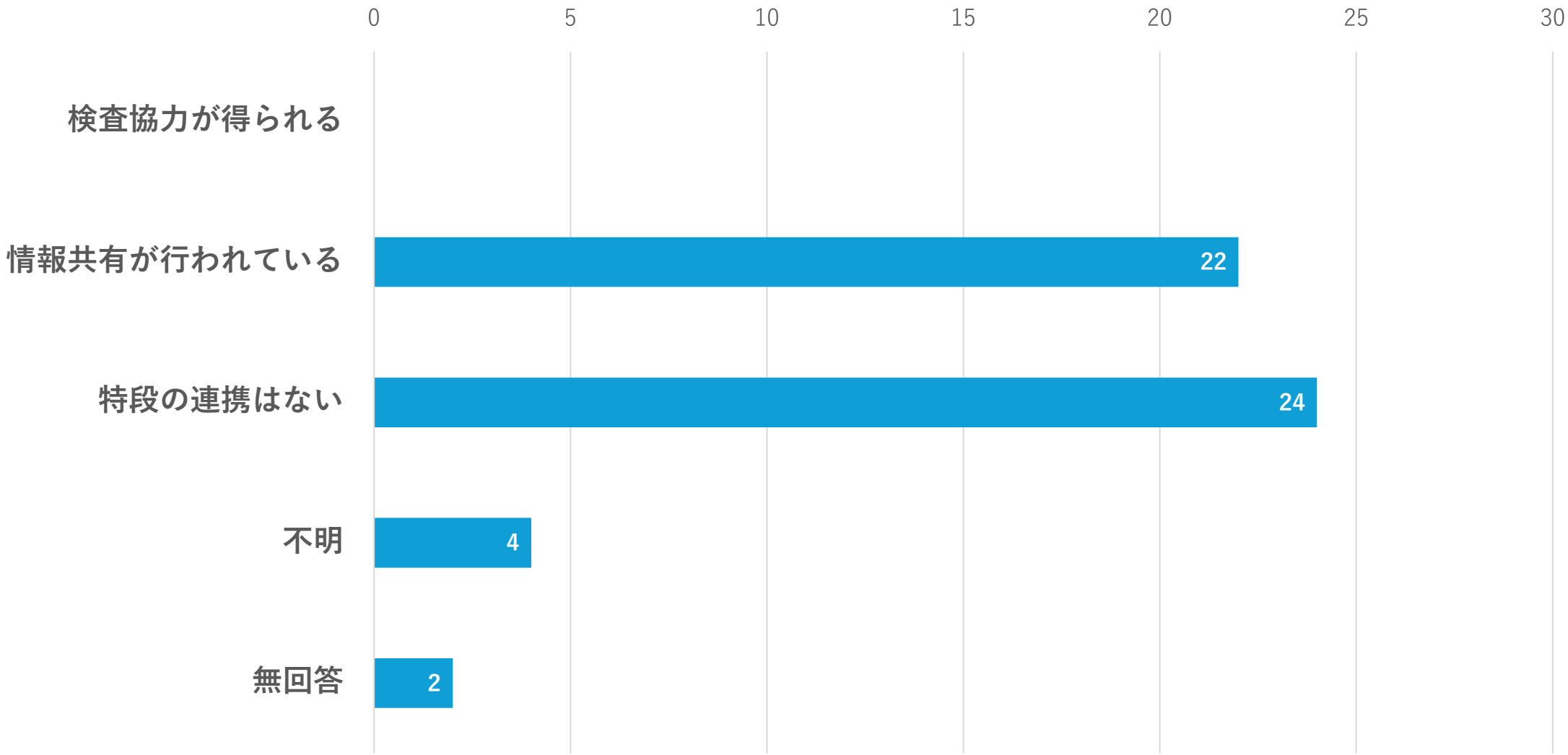
その他、回答

・愛護センター収容動物の譲渡、他県からの移入など
・自然に近い水辺のある公園や噴水等のよどみが感染場所として疑われる
・田畑の地域
・把握できていない
・症例の詳細な稟告を把握出来ていないが、発生地域の偏りはない
・症例が少ないため地域的特徴は不明
・情報提供の発生地が市町単位のため地域的特徴は把握していない
・地域的特徴は不明
・北部河川遊び後、マングース探索犬を初めとした世界自然遺産を守るための使役犬に頻発している。森林の中を縦横無尽に探索活動するため、台風・集中豪雨の後には、市街地でも発生あり、水田、放している犬で多い、野外活動の多い犬でも発生あり

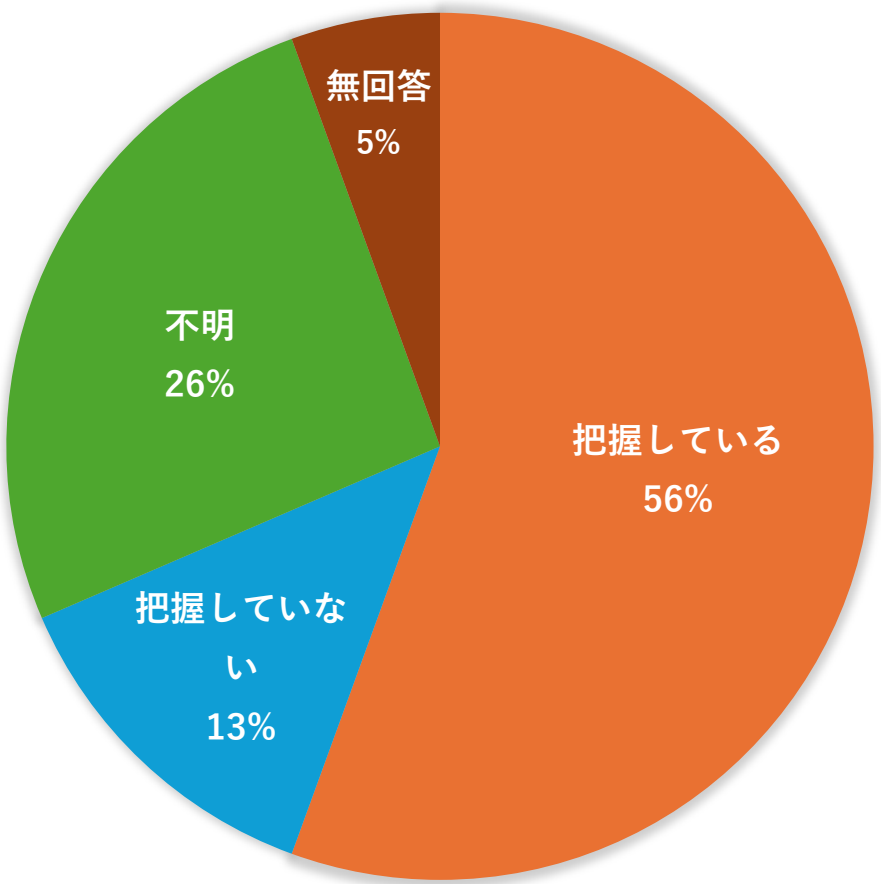
Q3.貴会管内では、レプトスピラ症の確定診断はどの程度実施されていると認識していますか?



Q4. 家畜保健衛生所（都道府県の機関）との連携状況についてご記入ください。



Q5.届出対象血清群以外の血清群（例：Hebdomadis等）の発生情報を把握していますか?



◆レプトスピラワクチンに関して、地域で課題となっている事項

・発生している血清型と国内で発売されているワクチンの血清型が不一致であること。

・ワクチン接種歴のある犬で発生事例が複数ある

・当会会員からのレプトスピラの報告症例の多くがレプトスピラワクチンを打っており、異なる血清型の可能性が高いが、発見時には重篤なことが多く、血清型の特定に至る前に亡くなっている。一方でワクチンを打っておけば大丈夫という誤った情報提供を行っている施設もあり、血清型の特定も含め改めて地域にあった疫学調査も必要と考えられる。

・ヘブドマディス型のワクチンがない。

・一部の獣医師から、犬レプトスピラ症単体ワクチンがあれば、キャンプ前などの必要に応じて接種できるので良いのではないか、との意見があった。

・野外で流行している全ての血清群を対象としたワクチンがないこと。

自由回答における主な意見

1　確定診断及び届出基準について

- ペア血清による抗体価の確認、血清群・血清型の特定、PCR 検査、分離培養等が必要となるため、確定診断の手続が煩雑であり、一次診療の現場では実施が難しいとの意見があった。
- 急性腎障害や肝障害を呈する重症例では治療が優先され、ペア血清の採取前に死亡するなど、確定診断に至らない場合がある。
- ワクチン接種歴や過去の感染による抗体価への影響もあり、抗体検査のみでは届出基準を満たしにくいとの指摘があった。
- 血清型を特定できない症例や疑症例が届出されず、実際の発生数が公表されている届出数を上回っている可能性がある。
- 犬の臨床実態に即した診断・届出基準を明確化し、単回の検査でも一定の要件を満たせば届出可能とするなど、手続を簡略化してほしいとの要望があった。
- 疑症段階で届出できることや、届出に必要な検査・手続について、臨床獣医師への周知が十分でないとの意見があった。

2　家畜保健衛生所との連携について

- 家畜保健衛生所が診断や検査の過程にほとんど関与せず、動物病院が民間検査機関への依頼から届出までを個別に対応している地域がある。
- 疑症の届出を受け付けない、又は血清型が判明してからの提出を求めるなど、家畜保健衛生所や担当者によって対応が異なるとの指摘があった。
- 届出をしても地域への注意喚起や追跡調査、獣医師会への情報提供につながらない場合がある。
- 家畜保健衛生所における届出受理基準、検査受入れ、検体提出方法等を全国で統一してほしいとの要望があった。
- 家畜保健衛生所から地方獣医師会や動物病院へ、地域の発生情報を速やかに共有する体制が必要との意見があった。

3 届出対象となる血清群・血清型について

- 国内で発生が多いと考えられる Hebdomadis が届出対象に含まれていないため、実際の発生状況と届出数に大きな乖離が生じているとの意見が多数あった。
- 血清群・血清型が特定できない症例や、届出対象外の血清群による症例が把握されていない。
- 現行の 7 血清型に Hebdomadis を追加してほしいとの要望のほか、血清型による限定を廃止し、犬のレプトスピラ症と診断された症例を広く届出対象とすべきとの意見があった。
- 「血清型」と「血清群」の用語が混同されているため、制度上の表記を整理する必要があるとの指摘があった。

4 検査体制について

- 小動物臨床では民間検査機関への外注が中心であり、血清群・血清型まで検査することは容易ではない。
- 家畜保健衛生所において PCR 検査や血清群別検査を受け入れる体制を整備してほしいとの要望があった。
- 血清群を簡易に判定できる検査手段の開発・普及や、検査可能な民間・公的機関の一覧、検体提出方法等の情報提供を求める意見があった。
- 民間検査機関で陽性となった場合に、公的機関や診療獣医師へ届出を促す仕組みを構築してほしいとの提案があった。

5 ワクチンについて

- 国内で発生している血清群と、現在流通しているワクチンに含まれる血清群が一致していないとの意見が多く寄せられた。
- 特に Hebdomadis に有効なワクチンが国内で入手できず、適切にワクチンを接種していた犬でも発症・死亡した事例が報告された。
- 国内の発生状況や血清群を把握する疫学調査を行い、その結果を踏まえてワクチン株を見直してほしいとの要望があった。
- Hebdomadis を含むワクチンや、地域で流行している血清群を対象としたワクチンの開発・再導入を製造販売業者へ働きかけてほしいとの意見があった。
- ワクチンの有効性の再検証、アレルギー反応の少ない製剤、必要時に使用できる単味ワクチン等を求める意見もあった。

6 発生情報の把握及び共有について

- 届出対象外の血清群や確定診断に至らない症例が把握されないため、全国・地域ごとの発生実態が見えにくいとの意見があった。
- 発生数、血清群、発生時期、発生地域等を継続的に収集し、地方獣医師会や臨床獣医師へ還元する全国的なデータベースが必要との要望があった。
- 地方獣医師会を窓口として、発生時期前に届出制度や感染予防について定期的に周知することが有効との意見があった。
- 厚生労働省、国立健康危機管理研究機構、自治体の保健部局、医師会等との情報連携を強化すべきとの意見があった。
- 発生情報をワクチン開発、飼い主への注意喚起、人への感染予防など、ワンヘルス・公衆衛生対策に活用してほしいとの要望があった。

7 制度全般に関する意見

- 家畜伝染病予防法における犬のレプトスピラ症の位置付けや届出方法が、小動物臨床獣医師にとって分かりにくいとの指摘があった。
- 動物種別の分かりやすい資料、届出判断のチェックリスト、簡易な届出様式、実務ガイド等の作成を求める意見があった。
- 行政区や担当者によって診断・届出の取扱いが異ならないよう、全国統一的な運用基準を整備してほしいとの要望があった。
- 猫を含む愛玩動物由来感染症について、既存の家畜伝染病予防法の枠組みだけでは十分に対応できないため、愛玩動物の感染症を包括的に扱う制度の検討を求める意見もあった。
- 感染疑い動物の診療・入院に伴うPPE、専用ケージ、診療停止等の負担に対し、保険や助成制度を検討してほしいとの意見があった。